

# インスピレーションになろう

## BE THE INSPIRATION



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 五味 秀幸

幹 事 手塚 正智

会報・雑誌委員長 吉田 恭平

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ 例会日 毎週火曜日(12:30~) 事務局 宇都宮市東宿郷3-2-5-803 TEL.028-638-5125 FAX.028-638-5128

通算2807号 2018年10月2日(晴れ) 第13回例会 会員数122名 列席72名 出席率67.29%

先日9月26日、チャーターメンバーである田嶋光男会員がご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、黙祷を捧げたいと思います。

— 黙 祷 —

点 鐘 五味 秀幸  
司 会 副SAA 細谷 会員

◇国歌「君が代」

◇ロータリーソング「四つのテスト」

◇本日のランチ

海鮮散し寿し 小付 汁 デザート

## 会長挨拶

五味 秀幸

皆様、こんにちは。先程、黙祷がございました。私もつい1時間ほど前に故田嶋光男会員の告別式に出席しておりました。出棺が午前11時45分ということで本例会に間に合わなくなるため、弔辞を読み、焼香を済ませて戻って参りました。既に連絡網にて皆様ご存知のことと思いますが、田嶋光男会員は先日9月26日に亡くられました。当クラブ創立来、各種委員会の委員長、地区委員、さらには会長等を歴任されおり、当クラブ発展のためにご尽力されております。改めてご冥福をお祈りしたいと思います。また、結果的に当クラブ会員数は1名減ということになりました。

ところで、10月は「経済と地域社会の発展月間」、「米山月間」でございます。今月、例会は5回あります。来週は職場訪問、第4週は夜の例会となります。第3週、第5週は米山記念奨学生関連となり、盛りだくさんの内容です。どうぞ、今月もよろしくお願い致します。簡単ではございますが挨拶と致します。



## 幹事報告

手塚 正智

◇去る9月26日に当クラブのチャーターメンバーの田嶋光男会員がご逝去されましたのでご

報告申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

◇ロータリーレート 10月は1ドル112円。

◇地区大会ご出席の方は早めにご連絡を。

◇地区より「地区ロータリー公共イメージ並びに会員増強セミナー」のご案内

開催日11月3日(土) 祝日。担当委員長、会員は御出席を。その後11月10日(土)「危機管理セミナー」、11月25日(日)「社会奉仕セミナー」開催予定。担当委員長はご出席を。

◇来週、10月9日は職場訪問例会。場所は清原工業団地内、久光製薬株式会社 宇都宮工場。



## 会員卓話

「宝くじの話 ～(幸福の女神)を迎えて～」

宇野 亮治 会員



初めに、宝くじの女神が参りましたので、皆様にご挨拶させていただければと思います。

—ハロウィンキャンペーンでいらした宝くじ「幸運の女神」の草野遥さんからご挨拶をいただきました。—

それでは、宝くじの話をさせていただきます。お手元の資料をご覧ください。まず、宝くじの歴史についてお話いたします。「宝くじ」は、宝くじの創成期である終戦直後に、当時の日本勧業銀行の行員が発案した呼称です。始めは当せん金ではなく、缶詰や嗜好品、布等、物の無い時代に宝物が手に入るということで「宝くじ」という名称に

なったということです。諸外国では「富くじ」と言い、約570年前にオランダで要塞の構築資金を集めるために発売されたのが世界で最初と言われています。日本では、約390年前の江戸時代初期に、現在の大阪の箕面山瀧安寺で、正月の元旦から7日までに参拝した人の中から3人の当せん者を選び出し、福運の「お守り」を授けたのが「富くじ」のはじまりと言われています。お守りを授けるだけだったものが金銭を渡すようになり、町に氾濫するようになったため徳川幕府が禁止しました。しかし、寺社仏閣には修復費用調達の一つの方法として発売を許しました。これを天下御免の富くじ「御免富」と呼び、「江戸の三富」が谷中の感応寺、目黒の瀧泉寺、湯島天神です。その後、天保の改革で禁止にして以降、明治、大正と売られていませんでした。1945年7月、政府は、戦費調達のため、1枚10円で1等賞金10万円が当たる富くじ「勝札」の発売をし、当時の日本勧業銀行に委託しました。それ以来、みずほ銀行が宝くじの受託をさせていただいております。

宝くじは法令に基づいて発売しています。「富くじを発売したる者は二年以下の懲役又は百五十万円以下の罰金に処す」とあり、勝手に売るとは出来ません。宝くじは全国の都道府県並びに20の政令指定都市が発売元となり、発売に関する事務をみずほ銀行が受託しています。ちなみに、事務として、単に売りさばきや当せん金の支払いだけでなく、宝くじ券の作成、CM、抽せん会の運営等、幅広くやらせていただいております。

年間売り上げは、1945年は3億円でした。2001年度には1兆円の大台になりましたが、サッカーくじ等で少し減少傾向にあり、2017年度の販売額は7,866億円、販売枚数は32億5千万枚で日本人一人当たり年間約25枚の購入ということになります。ジャンボ宝くじ（ドリーム、サマー、年末）だけで約2千6百億円の販売です。

宝くじは、約47%を当せん者へ還元し、経費が約14%、残りは発売元である地方自治体に収益金として納付させていただいております。地方自治体は教育施設や道路、橋りょう、公営住宅、社会福祉等の整備事業、文化芸術の振興、高齢化少子化対策、スポーツ事業の運営費等に当てております。当せん金は支払い開始日から1年で時効になります。2017年度は販売総額の1.76%、149億

円が無効になりました。その中には1億円以上の高額時効当せん金が16本含まれています。時効当せん金は全額、発売元の地方自治体にお渡ししておりますので、社会貢献に使われているとご理解いただければと思います。

どのような人が当たっているか、2017年度、1,000万円以上当たった1,065名以上の方のアンケートをもとに作られた「宝くじ長者白書」から人物像を見て行きたいと思います。高額当せん者のモデル人物像の男性は、購入歴10年以上で60歳以上、1回あたりの購入が30枚以上、双子座の会社員のT・Kさんです。年齢別では男女とも60歳台の方、星座別では、男性は双子座、女性は山羊座、購入歴は10年以上、購入枚数は男性30枚の方が高額当せんされています。購入時にこだわったことは、連番・バラの割合、売り場等です。保管場所は、1位神棚・仏壇、2位机の引き出し、3位カバン・ハンドバックです。当せんしたら何に使うかですが、1位が貯蓄、2位が借入金の返済、3位が車の購入です。当たった際は、是非、みずほ銀行宇都宮支店にお越し下さい。当せん者の秘訣は、第1位は運だそうです。

次の頁は、平成30年度の宝くじ「幸運の女神」の皆さんが写った写真です。「幸運の女神」は1980年に夢と幸運をお届けするという事で登場致しました。各地の新聞社やテレビ局などを訪問し、宝くじのPR、各地で開催される宝くじの抽せん会での司会やアシスタント業務、また、本日のようにジャンボ宝くじのキャンペーンで全国を回っていただいております。2001年度から「幸運の女神くじ」も販売しております。昨日「ハロウィンジャンボ」が販売されました。一昨年までは「オースタムジャンボ宝くじ」と呼んでいたもので、若干、販売が下降傾向のため、名前を変えたりして浸透を図っているところです。「ハロウィンジャンボ宝くじ」は、1等賞金3億円・前後賞合わせて5億円、「ハロウィンジャンボミニ」は1等賞金3千万円、前後賞合わせて5千万円です。

最後になりますが、皆様に宝くじを買っていただいて、国民の健全な娯楽、夢への貢献、地方財政の貢献をみずほ銀行は受託させていただいておりますので、今後共、是非ともよろしくお願いたします。